

希望の船

We love BIWAKO

「みずうみに学んで世界の明日をひらく人」

滋賀県立びわ湖フローティングスクール
〒520-0047 大津市浜大津5丁目1番7号
<https://uminoko.jp/>

1日航海で無事折り返し

【所長 東 文三】



令和2年11月30日（月）、今年度60回目の児童学習航海が終わりました。今年度は、感染症拡大防止のため1日の日帰り航海が9月1日から始まりました。台風等の影響により2回延期する航海がありましたが、いずれの航海も予備日に実施することができ、現在のところ予定していた航海を全て実施しました。昨年度からの延期の航海を含めると103回実施する予定で、折り返し地点を過ぎたところです。

乗船校の先生は、1日航海になり、活動時間が短く、びわ湖学習の時間が少なくなり残念であるとの感想を持たれています。

今年に限ってのフローティングスクールによる出前授業を希望された学校は、その学習を有効に活用されています。出前授業では、湖底の観察、びわ湖の深呼吸を学び、乗船中には透視度調査やプランクトンや魚の観察、びわ湖の漁法の活動を仕組まれた航海がありました。出前授業の湖底の観察では、湖底の泥の様子や貝などの生き物を観察することができ、びわ湖の深呼吸では、びわ湖の水の温度による動きや深いところにすむ生き物について考えるきっかけとなったと思います。乗船中には、魚やプランクトンなどの生き物や水について、さらに調べていくことができたのではないのでしょうか。

また、休校中、家庭でもびわ湖学習について学べるように作成したサテライト動画を活用されている学校もあります。児童とともに学校で視聴したり、先生が授業をするために事前に視聴されたりするなど活用されています。乗船する前に、先生が「水のごれ回復実験」の動画を見て、実験の方法や指導のポイントを教材研究されてから、実際に児童に指導をされたということもあります。その先生の指導によって、子どもたちは生き生きと学習していました。

さらに、学校間の交流を工夫されている航海もありました。模造紙に各自が振り返りや思い出を付箋に書いて貼り、下船後のお別れの式で紹介し合うというものでした。密を避けながら、他校との交流ができました。

「湖の子」サポーターに乗船を依頼し、びわ湖学習の支援をしてもらったり、琵琶湖博物館やボランティアの方と連携したりして航海をする学校もあります。事前に博物館を訪問したり、出前授業をしてもらったり、学びの深まりにつなげていました。



感染症の影響により一時は実施すら危ぶまれた状況の中で、乗船校の先生方の努力により充実した航海となっています。まだまだ感染症拡大には予断を許しませんが、子どもたちの思い、保護者や県民の皆さんの思いを実現できるように、今年度の折り返し以降の航海に乗船する子どもたちにとっても、安全安心で心に残るフローティングスクールにしていきたいと思います。